

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：避難シミュレーション	
日付： 6月 14日（日）曜日，セッション時間：16：00～17：00	
オーガナイザー・司会者名（所属）：及川康（群馬大学）	
討 議 内 容	セッション全体：全体討議は行わず個別の発表で議論がなされた。
	<p>(273) 藤田雅久（金沢大学大学院）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画避難の人はどうやって避難するのか？ →避難バスで避難する ・マイクロシミュレーションの再現性はどうやって保証するのか？ →交通センサスを用いる．それより細かいのは付属のプログラムでやっている． ・対象人口はどの程度？ →6万人 ・バスの手配はどうなっている？ →1300台用意する（避難完了まで40-50分）． ・1300台はどこから？ →域内からの調達で賄う．到達するまでの時間はそれほど大きくはみていない． ・ピストン輸送にも対応できるのか？ →シミュレーションとしては対応可能 ・今回は非現実的な想定でシミュレーションしている．今後はいろいろなシナリオを考えた上で評価する必要がある．信号コントロールも，風向きも必要だが，まずはプロトタイプということ．
	<p>(274) 二神透（愛媛大学）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも地域にコンピュータを持ち込んでのリスクコミュニケーションは難しいのでは？ →まだ行政にしか見せていない．まずは自主防災の会長に見てもらうところから入る予定． ・地域に情報システムのニーズがないと入りにくい．欲しいと思わせる前振りが重要ではないか？ →自主防災の人からの要求を聞いて，それを満たすものを作っている ・求めているのはソリューションではないか？問題やお勧めオプションをまとめて持って行ったらいいのではないか？ →個人の意識変化や合意形成のために使うのが目的．避難訓練で活用してみるのも1つの考え． ・シミュレーションによって初めてわかることが何かあるのか？ →意外と逃げないことが安全な可能性もある． ・地元の知恵などを入れておければ地域に受け入れられるかもしれない．
	<p>(275) 柿本竜治（熊本大学）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で避難経路の遮断としたが，どの程度で？ →浸水深ではなく，流体力を用いて行っている． ・豪雨の中での移動と晴天での訓練では違いがあるのでは？ →まずはシミュレーションと実際が合うかを検証したかった． ・車と歩行者のエージェントはどうなっているのか？

→同じ大きさを動く． まだあまりやっていない．

- ・歩行者と車との輻輳はあるのか？

→車と人の速度はものすごく違う． 中山間地のケースで， コミバスで避難させるということをやっているが見せ方も難しい．

- ・車の表現について

→そういうものを見せて何を導きたいかで精度は変わる． 早く逃げてほしいことならば車が水に突っ込んで渋滞する様を見せるのが効果的かもしれない．

※発表件数に応じて適宜追加してください．